



資料3

令和7年度第1回 埼玉県生涯学習審議会

令和8年1月22日(木)

審議テーマ

審議テーマ（案）

誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現に向けて
—学習継続のための共通視点について—

生涯学習推進指針

生涯学習を推進するための「3つの柱と9つの方策」を示している。

埼玉県生涯学習推進指針（改定版）概要

- 埼玉県生涯学習審議会から埼玉県教育委員会へ答申「埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について」（令和5年3月）
- この答申を受け、埼玉県5か年計画を踏まえ、埼玉県教育振興基本計画との整合性を図り、「埼玉県生涯学習推進指針」を改定
- 令和5年度からおおむね10年間を見通した指針とする

改訂版策定
から3年目

第1章 生涯学習推進指針の改定

(1) 改定の趣旨

平成25年に生涯学習推進指針を策定したが、新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル技術の急速な進展など、社会を取り巻く環境も大きく変化している。誰もが自分らしく学ぶことができる生涯学習社会の実現を目指して、指針を改定するものである。

(2) 指針の性格

本指針は、埼玉県5か年計画を踏まえ、埼玉県教育振興基本計画との整合性を図りながら、令和5年度からの生涯学習分野における基本的な考えや方向性を示したものである。

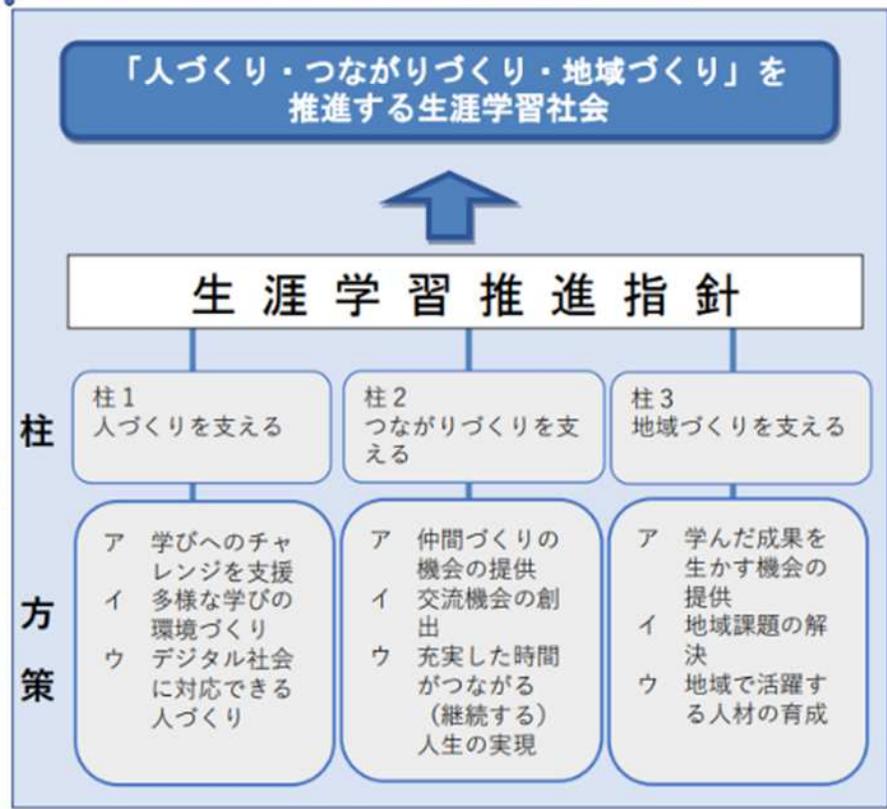
(3) 指針の見直し

生涯学習を推進するためには、長期的視点に立ち持続的に取り組んでいく必要があることから、令和5年度からおおむね10年間を見通したものとする。
なお、社会情勢等の変化を踏まえ、必要に応じて適宜見直しを図る。

第2章 本県の現状と課題

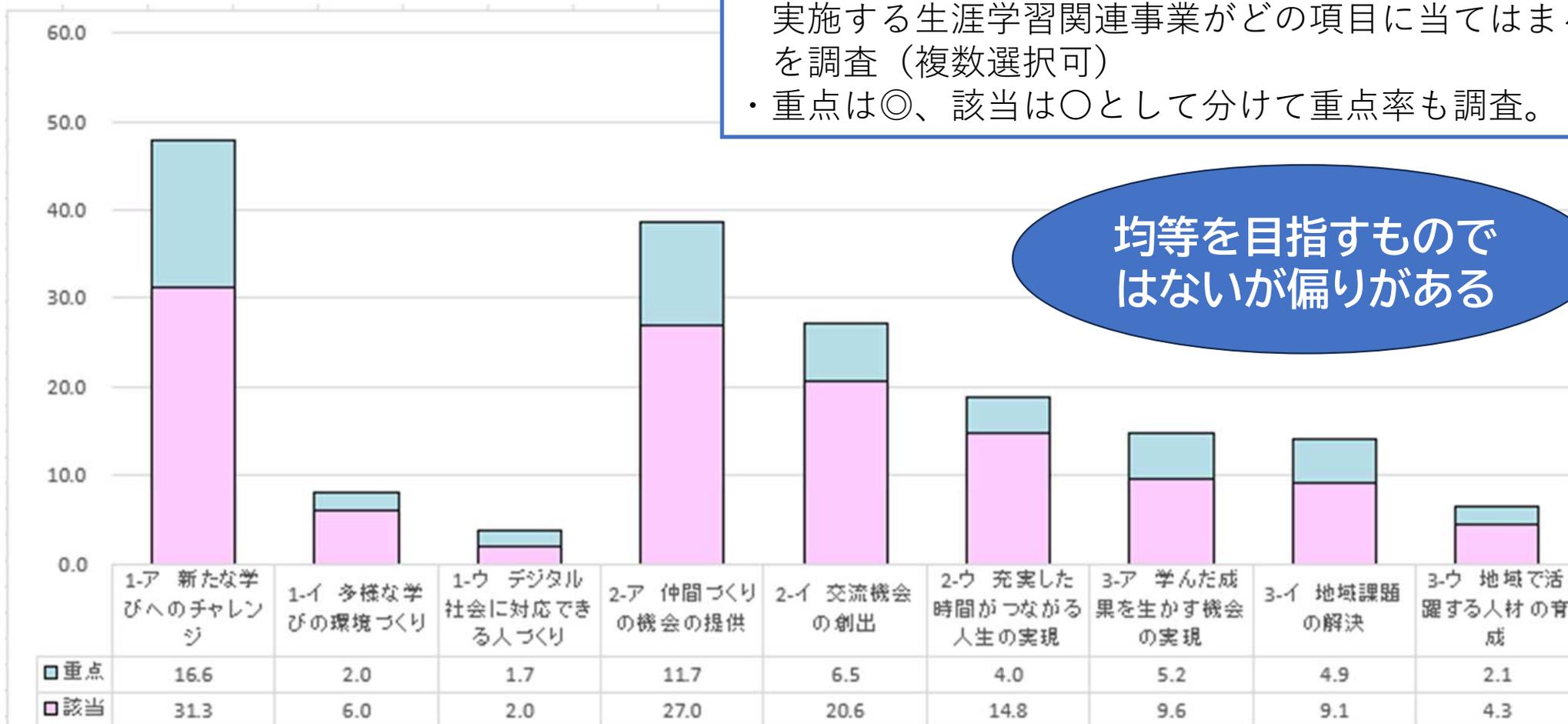
現 状	課 題
人口減少・少子高齢化の進展により、地域社会の活力の低下や人間関係の希薄化、「人生100年時代」と呼ばれる社会の到来	子供から高齢者まで「多様な学習機会の充実」や「地域社会における人々の絆の形成」に対する支援が必要
人々のデジタル化に対する意識の変化や、デジタル技術の進展により、生活や働き方に大きな変化	県民のデジタルリテラシーの向上やデジタルデバイドの解消に向けた支援が必要
県人口に占める外国人の割合の増加するなど価値観やライフスタイルの多様化	お互いの立場を理解し認め合い、誰もが暮らしやすい社会づくりを進めていくことが必要

第3章 生涯学習を推進するための方針



生涯学習推進指針取組状況調査

- ・ 県で示した**3つの柱と9つの方策**について、市町村で実施する生涯学習関連事業がどの項目に当てはまるかを調査（複数選択可）
- ・ 重点は◎、該当は○として分けて重点率も調査。

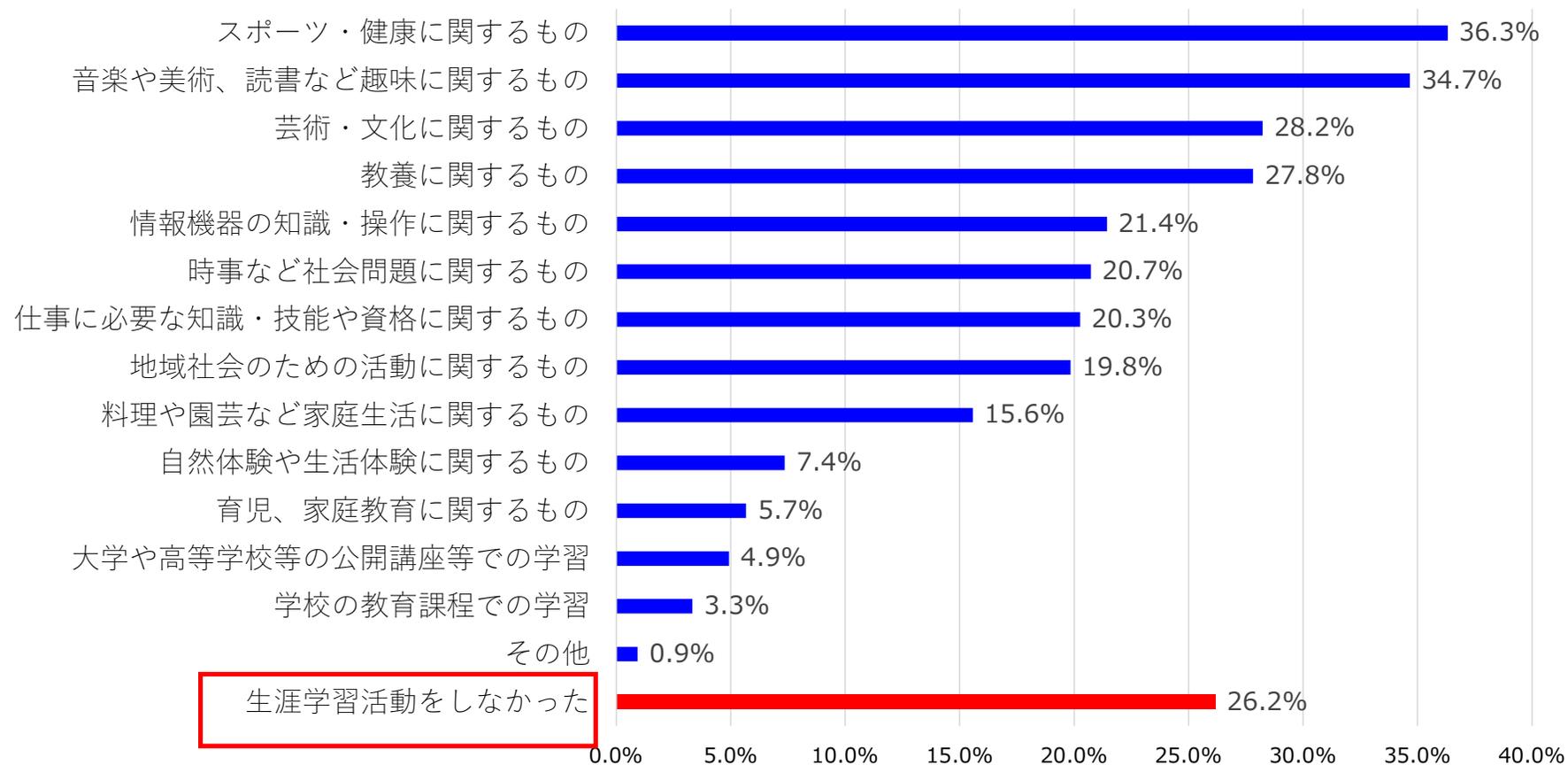


均等を目指すものではないが偏りがある

令和6年度埼玉県生涯学習推進指針取組状況調査（市町村） 総事業数に対して指針の各方策に該当する事業数の割合

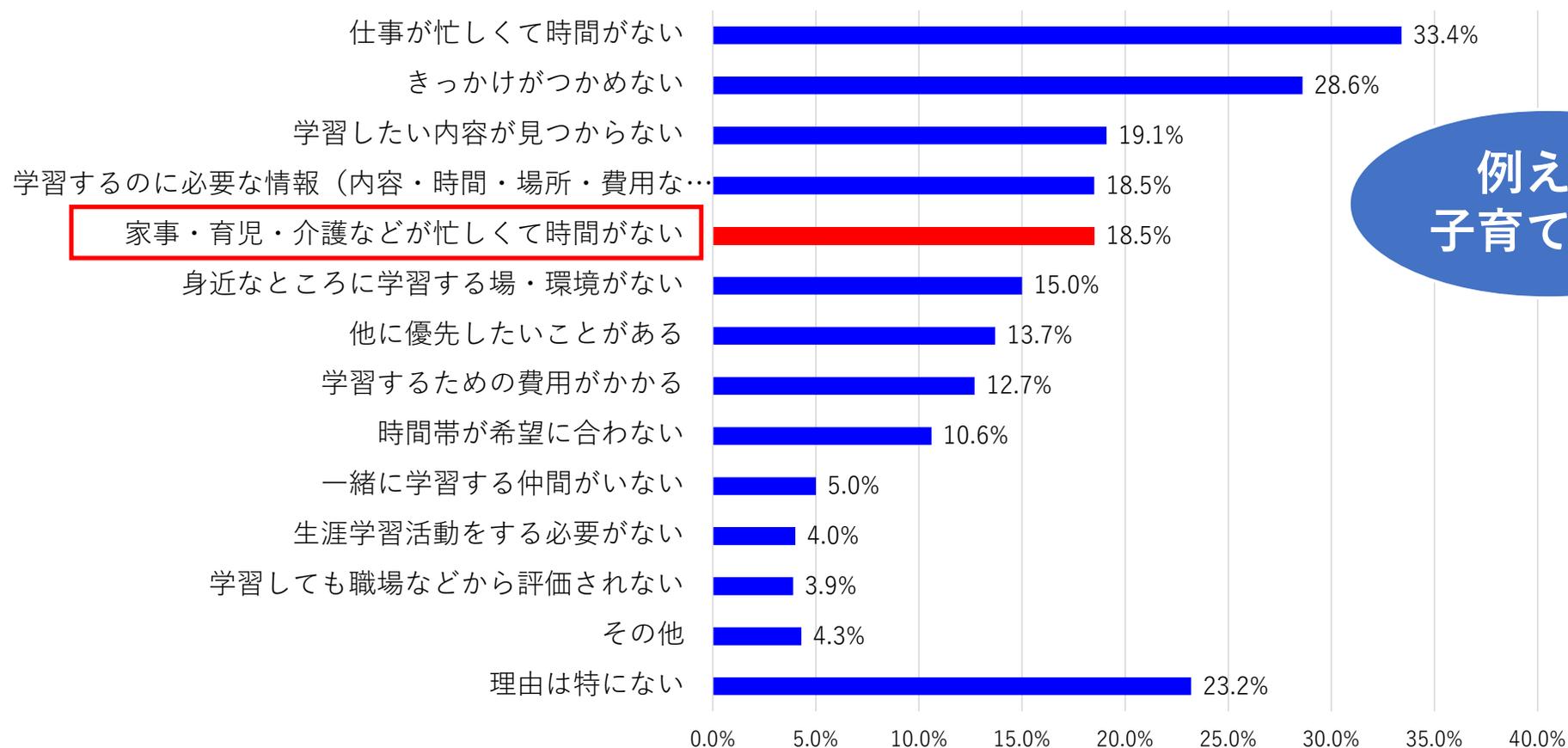
県政サポーターアンケート

あなたは、この1年間くらいの中に「生涯学習活動」を行いましたか。



県政サポーターアンケート

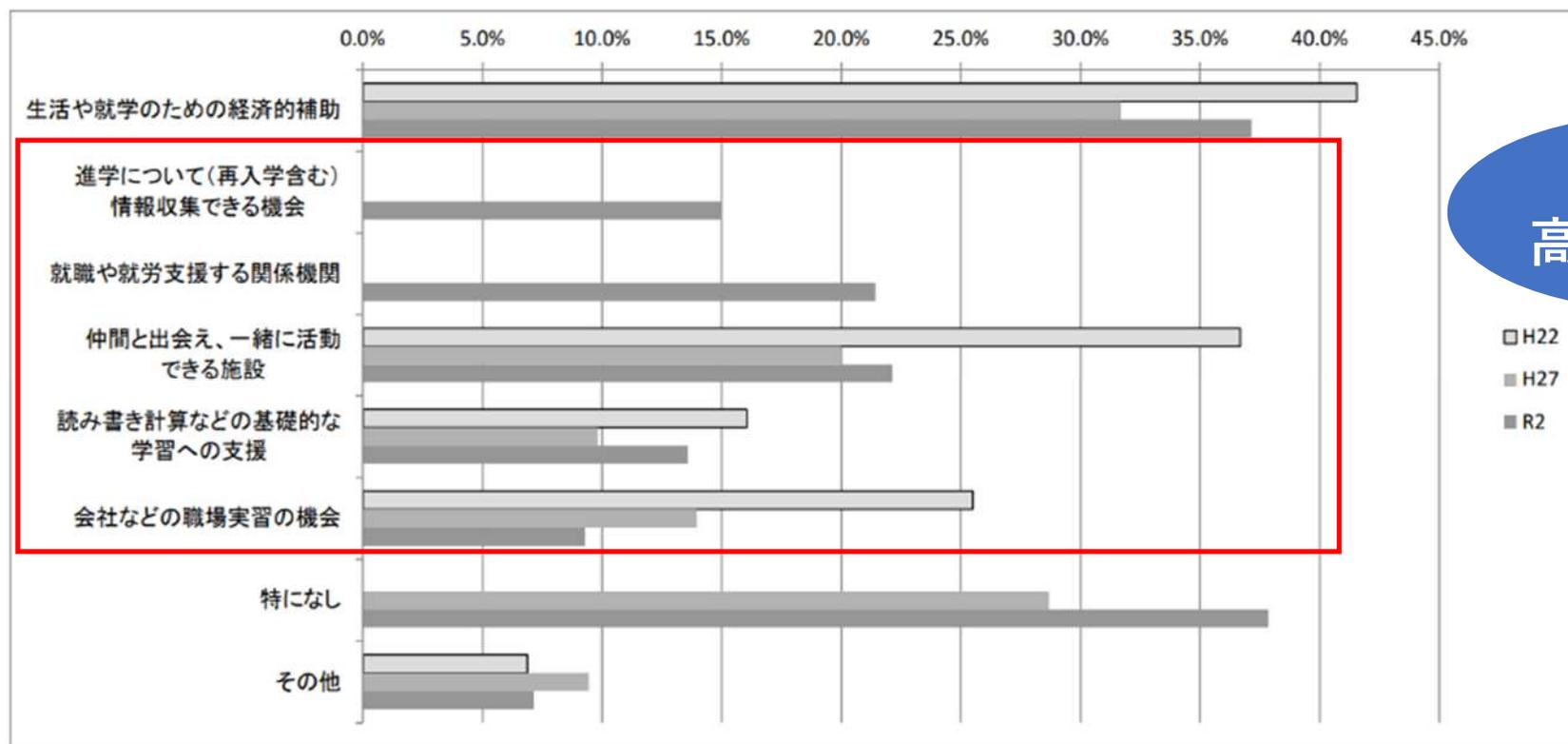
あなたがこの1年間くらいの中に「生涯学習活動」をしなかった理由は何ですか。



例えば
子育て世代

高等学校中途退学者追跡調査

現在のあなたにとって必要なことは何ですか。



例えば
高校中退者

令和2年実施高等学校中途退学者追跡調査

誰もが、学び続けられない状況になることはありうる。

第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（概要）

～全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開；リカレント教育の推進と社会教育人材の養成・活躍のあり方～

はじめに

第11期分科会までの議論を基に、第4期教育振興基本計画（令和5年閣議決定）を踏まえ、「生涯学び続ける社会の実現及びすべての人のウェルビーイングを目指したリカレント教育」「すべての人のウェルビーイングにつながる地域コミュニティを支える社会教育人材のあり方」についてとりまとめ。

生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

<生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿>

人生100年時代に、経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング」を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会

<デジタル社会への対応>

デジタル化の恩恵を享受し、誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消

<社会的包摂への対応>

社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献

<生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方>

社会教育の連携分野や担い手が多様化する中、社会教育行政が人々の学習活動の支援を通じて地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材には大きな役割が期待

<生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの>

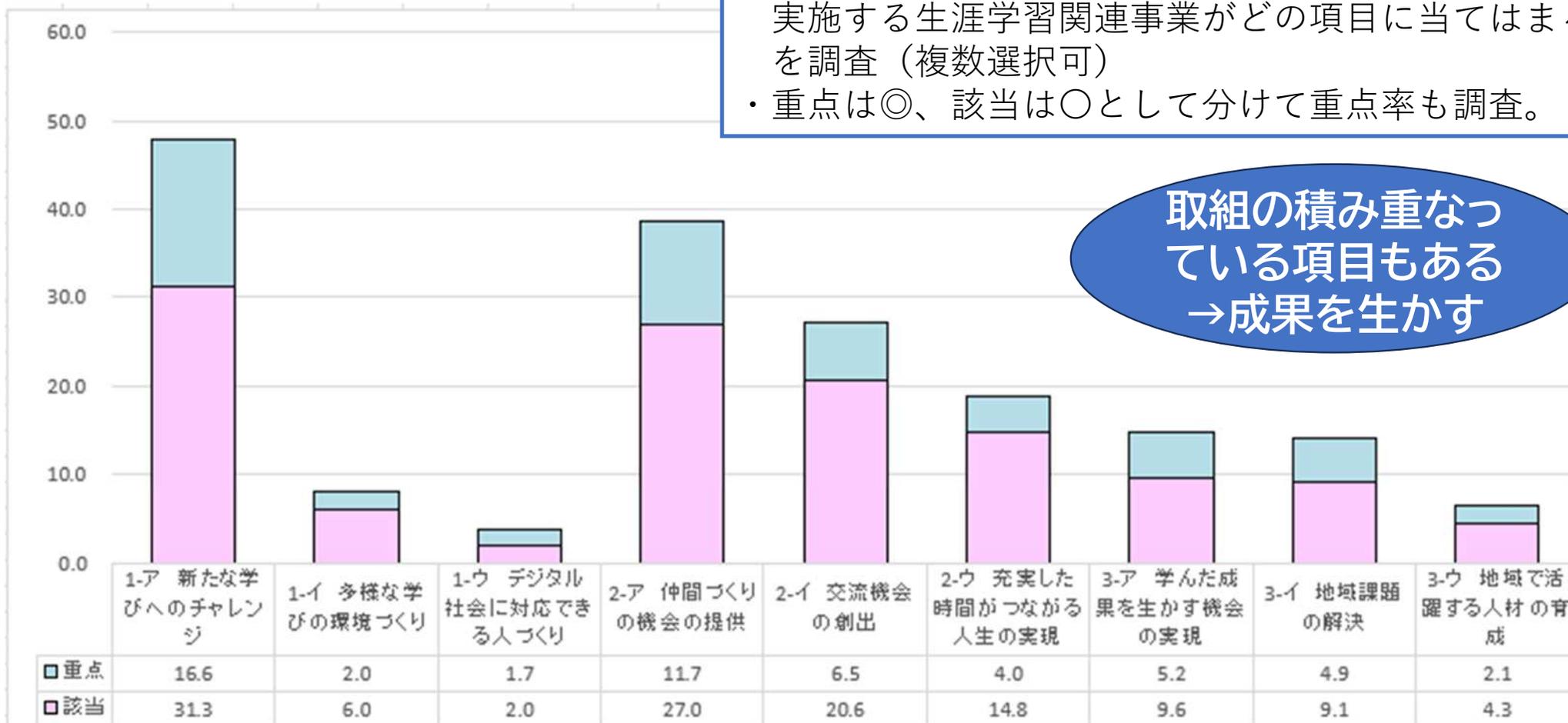
【初等中等教育】 学ぶ楽しさを味わいつつ、自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む

【高等教育】 自ら課題を設定し、その解決を発見できる自律性を伸ばし、学びを活かして社会を牽引できる人材を育成

【リカレント教育】 職業経験から導かれた問題意識や仮説を自らの意思で学び、成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

生涯学習推進指針取組状況調査

- ・ 県で示した**3つの柱と9つの方策**について、市町村で実施する生涯学習関連事業がどの項目に当てはまるかを調査（複数選択可）
- ・ 重点は◎、該当は○として分けて重点率も調査。



令和6年度埼玉県生涯学習推進指針取組状況調査（市町村） 総事業数に対して指針の各方策に該当する事業数の割合

生涯学習推進指針の取組が充実している項目の考察

- ①市町村該当率（各項目に該当する事業が1つ以上ある市町村の割合）
②市町村重点率（◎が1つ以上ある市町村の割合）
③事業の規模（総延べ参加者数、土日や夜間の実施比率）を総合的に高い
生涯学習推進指針の9つの項目（方策）のうち、該当率・重点率・規模の3側面で総合的に高い項目を特定。数値は該当率／重点率／総延べ参加者数／土日夜間実施比率の順に記載。

1－ア：新たな学びへのチャレンジ

98.36%／81.97%／1,327,455人／41.8%（該当事業 2,919件）—幅広い市民向けの入門・市民大学等が多数。

2－ア：仲間づくりの機会の提供

96.72%／77.05%／1,907,831人／42.3%（2,652件）—クラブ・サークル、放課後子ども教室など参加型が主流。

3－ア：学んだ成果を生かす機会の提供

93.44%／68.85%／1,066,070人／48.6%（849件）—発表会・展示・文化祭など「成果の見える化」を伴う取組が広く展開。

2－イ：交流機会の創出

91.80%／70.49%／1,101,741人／36.2%（1,774件）—やさしい日本語、国際理解、料理・文化交流などが多様に展開。

充実した取組に共通の視点

「場」がある（公民館・センター等）

会場記述のキーワード出現回数：公民館 2,325、センター 1,959、図書館 509、学校 305—地域の基盤施設が広く活用されている。

「時間」が合う（働く層への配慮）

上位項目はいずれも土日夜間の実施比率が高め（例：3－ア 48.6%、2－ア 42.3%、1－ア 41.8%）。参加しやすさが規模の拡大に結び付いている。

「成果の見える化」で循環を生む

3－ア（成果発表・展示等）が高該当・高重点。学び⇔活動の循環が生まれやすく、継続参加を促進。

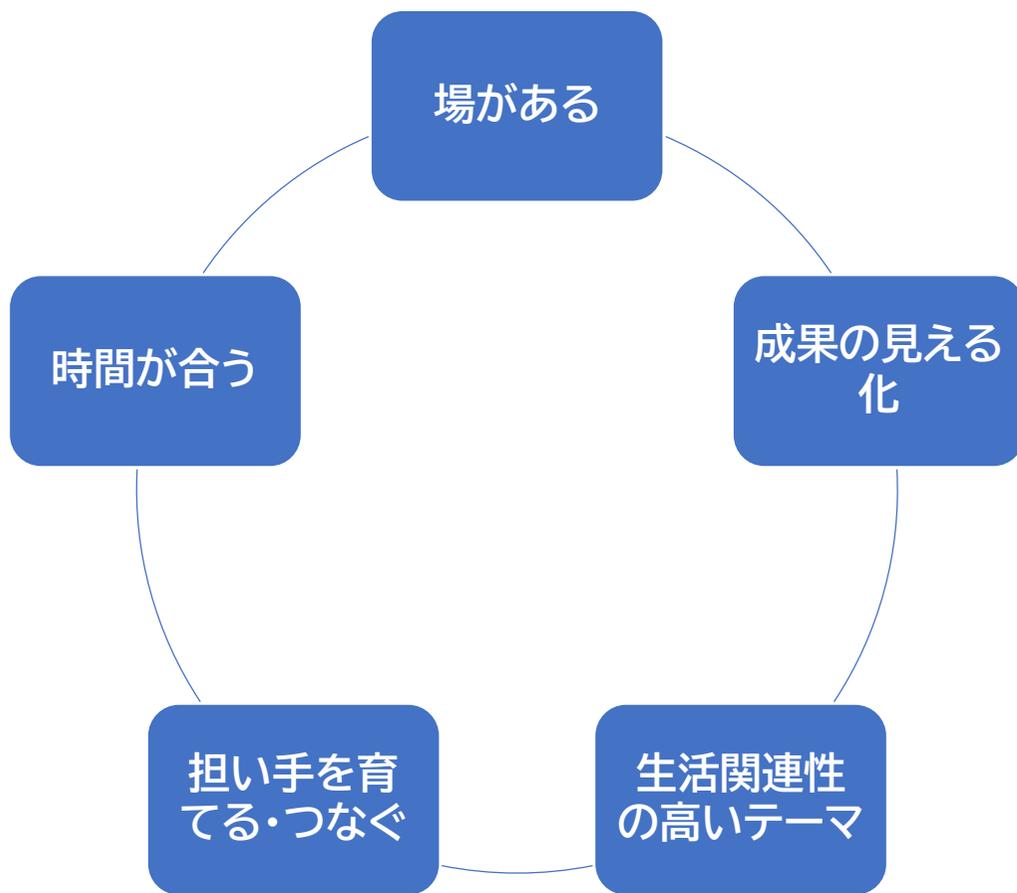
「担い手」を育てる・つなぐ

事業名の頻出語：ボランティア 70、サポーター 58、人材バンク 4。3－ウ（人材育成）はC（社会貢献）区分との併記率が40.2%と突出し、地域貢献と人材育成が連動。

「生活接続性の高いテーマ」

頻出語：健康 141、スマホ 111、防災 59、日本語 31、交流 70—日々の暮らしや地域関係に直結するテーマが参加を呼び込む。

充実した取組に共通の視点

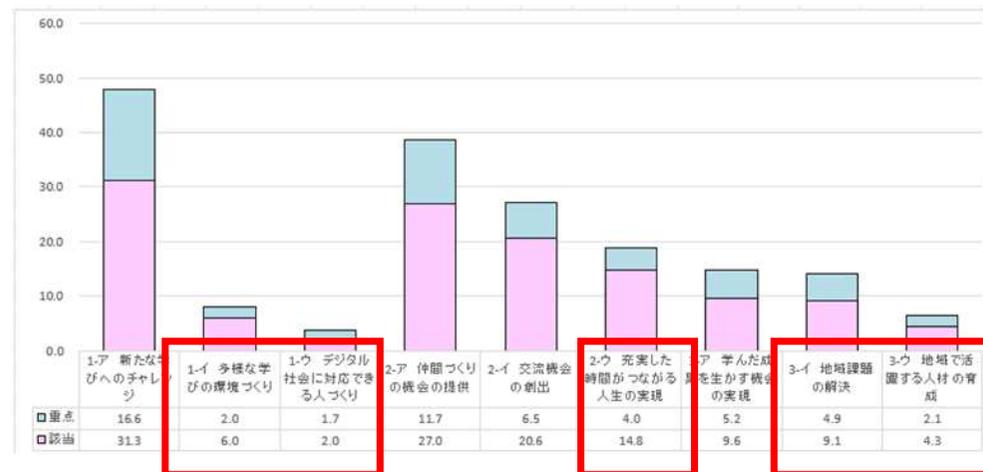


充実した生涯学習関連の事業・講座には、これらの要因が考えられる。



調整・補足

取組の弱い項目の充実や、**誰もが学び続けられる生涯学習社会づくり**に生かせないか。



主な論点（案）

- 誰が学べていないのか、それはなぜか（対象、理由）
- どうすれば学びに参加／継続できるのか（取組の方向性）
- 誰が支えるか（担い手と連携）
- どこから始めるか（優先順位など）

+ 共通視点は妥当か（どんな調整や補足が必要か）



・ 県内の生涯学習推進の取組を後押しするため、学習継続の共通視点をわかりやすく整理し、事例やヒントとして示していく。



誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現